

平成 24 年度入省予定

環境省 I 種理工系

「内定者の声」



《はじめに》

本紙は環境省 I 種理工系内定者(平成 24 年 4 月入省予定)が自主的に製作したものです。幅広い人材を求める環境省を皆様に知っていただくこと、環境省に興味を持っていただくことを目的に製作しました。

ここに示した内定者の経験が、皆様の進路選択の一助となれば幸いです。

平成 23 年 12 月
環境省 I 種理工系内定者 一同

《本紙構成》

- * 内定者データ一覧
- * 内定者個人ページ
- ◆基本データ（専攻、学年、試験区分、筆記合格年度、説明会※参加回数、併願省庁）
- ◆就活のスケジュール
- ◆大学生活の過ごし方について
- ◆趣味、特技
- ◆志望動機
- ◆公務員試験について
- ◆官庁訪問について
- ◆環境省を志望される方々へメッセージ

《付記》

本紙内容に関する責任は、全て製作者である内定者にあります。また、各人の考え方、勉強法などはあくまで個人的な見解です。

また、平成 24 年度から公務員採用試験が大きく変わります。主な変更点として

- ・ 現行の I 種、II 種、III 種試験を廃止し、総合職及び一般職試験に再編すること
- ・ 総合職試験に院卒者試験を創設すること

などがあり、試験内容にもいくつか変更点があります。詳しくは人事院HPにてご確認下さい。(人事院：<http://www.jinji.go.jp>)

以上のことを十分に御理解の上お読み下さい。

※ 説明会...霞ヶ関 OPEN ゼミ、人事院や大学主催の説明会、環境省主催の政策シミュレーションなど

《内定者データ一覧》

〈男女比〉

| | |
|-------|-------|
| 男性 5名 | 女性 1名 |
|-------|-------|

〈試験区分〉

| | | |
|--------|--------|--------|
| 理工Ⅰ 4名 | 理工Ⅲ 1名 | 理工Ⅳ 1名 |
|--------|--------|--------|

〈学歴〉

| | |
|---------|---------|
| 修士新卒 5名 | 博士新卒 1名 |
|---------|---------|

〈初回訪問日〉

| | | |
|--------|--------|--------|
| 一日目 3名 | 二日目 2名 | 三日目 1名 |
|--------|--------|--------|

〈OB・OG 訪問の有無〉

| | |
|-------|-------|
| あり 2名 | なし 4名 |
|-------|-------|

〈その他進路〉 複数回答可

| | | | |
|-------|-----------|-------|--------|
| 民間 1名 | その他公務員 3名 | 進学 3名 | 研究職 1名 |
|-------|-----------|-------|--------|

〈ボランティア経験の有無〉

| | |
|-------|-------|
| あり 4名 | なし 2名 |
|-------|-------|

〈予備校の利用〉

| | | |
|---------|-----------------|-------|
| 模試のみ 1名 | 大学の公務員 講座 1名 | なし 4名 |
|---------|-----------------|-------|

* これは、本年度の内定者に限った結果です。

| |
|-----------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 都市環境工学 |
| 【学年、性別】 |
| 修士課程 2 年、男 |
| 【試験区分】 |
| 理工 I |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成 22 年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 4 回 |
| 【併願した省庁（第 1 クール訪問順）】 |
| 環境省 → 経済産業省 |

【就活のスケジュール】

学部生の時の就職活動はしませんでした。また、大学院の試験と内容が重なるため、国 I の筆記試験は修士一年のうちに受けておきました。

就職活動は省庁か民間ではインフラ関連のみで考えていたためあまり積極的に行っておらず、民間へのエントリーはかなり遅れてスタートし、10 社程度に絞っていましたが、4 月になっても内々定が得られていないことに焦り出し、それまで検討していなかった中で比較的採用活動が遅かった商社なども受け始め、一社内々定を頂いた所に待ってもらう形で官庁訪問を行いました。

〈修士 1 年〉

- 4 月 国 I 筆記試験の準備
- 5 月 国 I を受験
- 8 月 民間インターンシップの説明会に参加
- 12 月 民間企業の合同説明会などに参加
- 2 月 民間エントリー開始
- 3 月 民間選考、本省主催説明会

〈修士 2 年〉

- 6 月 官庁訪問

【大学生活の過ごし方について】

学部時代は勉強は最低限単位を取れる程度に行い、応援部吹奏楽団での活動に集中しま

した。特に四年の時には、後輩育成の新しい方法を提案する、新しい役職を作り責任者になるなど、精力的に活動しており、学部時代頑張った事を聞かれても、応援部での活動しか思い浮かびません。現状の問題点を自分の頭で分析し、自分なりに解決策を提案する非常に良い経験になったと思っています。

また部活の性質上大学の色々な部活の人や他大学の人と広く交流があったので、そういった人脈が財産であると思います。部活以外でも研究の一環で韓国で行われた地球温暖化対策に関するワークショップに自主的に参加するなど海外の学生とも交流を持ち、自分の視野を広げる事を強く意識してきました。

【趣味、特技】

ピアノ、吹奏楽、音楽ゲーム、読書、麻雀

【志望動機】

元々環境に興味があり、大学では家庭における消費行動に関して環境負荷の評価を行い、一般的にエコだと思われる行動が本当に環境に優しいものなのか、またどういった行動による削減効果が大きいのかなどを検証したうえで、その情報を消費者に使ってもらうためにどういったツールを作ればよいかという研究を行っていました。

ただ、研究の性質上使えるデータが得られるかどうか精度が大きく左右されるため、不確かな部分の仮定の置き方など研究者の恣意的な評価になりがちです。また、研究として意義のある結果が、消費者が求める情報の種類とマッチしないケースが多々あります。

こうした事情からやはり実際に住民を動かす力がほしい、また世の中のニーズに柔軟に対応できるようにしたいということで、民間に必要なデータを依頼し、机上の空論ではなく政策を形にし、日本全国に発信する力をもつ国家公務員という立場が最も向いていると考えました。

あわせて、大学で環境問題について広く学ぶ中で、公害対策や環境負荷削減のノウハウを持ちながらなかなか世界で主導権がとれない日本を環境立国したいという思いもあり、国際間の交渉の戦略が組める省庁を選んだという所もあります。

商社などで環境ビジネスの拡大に努める選択肢もありましたが、かなり苦戦しているという話を多方面から伺い、現状では各企業の努力よりも企業が戦いやすいように国際的な風潮や枠組みを作っていく国の働きの方がまず必要であると考えました。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

国家Ⅰ種教養試験 過去問、公務員試験 速攻の時事、技術系よくでるシリーズ①工学に関する基礎（数学・物理）の頻出問題、シリーズ②土木の頻出問題、高速マスター人文科学、高速マスター社会科学（過去問以外全て実務教育出版）

〈試験対策について〉

技術系の場合よくある事だと思いますが、専門については大学院試験の内容がかなり活かされたので、過去問を解く以外はほぼ教養試験の対策だけで済みました。物理・化学に関して基本的な事を広く浅く確認するために工学基礎の問題集を、元々あまり得意でない社会の部分を別途参考書で補いました。時期的には一次試験の一か月前位に教養の勉強を始めたと思います。小論文や人事院面接の対策は特にしませんでした（それで小論文はあまりうまくいきませんでした…）。

【官庁訪問について】

官庁訪問への準備としては、志望動機や大学で力を入れてきたことの説明など一般的な事については民間の就職活動での面接で経験を積むことで慣れ、環境省特有の対策としてはパンフレットやホームページで知識を拾い、自分なりにそれに対する考えを固めておきました。

民間の内々定を得ていた事もあり、訪問は強く興味があった環境省と経済産業省のみ行いました。環境省の訪問は、面接官のこれまでの職務に関する話を聞く事と面接を合わせたような内容で、想像していたより話しやすい雰囲気でした。ただ時折予想していなかった質問が来て焦ってしまう事もありました。前もって準備してきた内容についても控室で話を聞かせてくれる若手職員さんにぶつけてみると、意外な指摘を受けたりして良い経験になります。拘束時間が長いと聞いていましたが、技術系の志望者に関しては夕方頃には帰宅する事が出来ました。

併願していた経済産業省の訪問は、職務の話と面接が分かれていて、グループディスカッションや小論文もあり盛り沢山な内容でした。可能な限り志望者が関心のある分野の職員さんを紹介してもらえる仕組みのため、そこで聞いた話をいかに面接に還元出来るかが勝負だったように感じました。なお、第二クールの最後の面接で「環境に悪影響を及ぼしうる経済政策を担当する事もあるが、その時君は素直な気持ちで推進出来るのか」と質問されうまく答えられなかったことから、環境省に決めました。

【環境省を志望される方へメッセージ】

就職活動は全力で取り組んだ方がいいと思います。最初は全くといっていいほど関心がなかった商社も、半ば軽い気持ちで面接を受けて話をしてから非常に魅力的に感じて直前まで環境省と迷ったため、内々定を頂いた企業には多大なご迷惑をおかけしてしまいました。全く説明会を受けなかった別の企業に実は自分がやりたい事があったのかもしれないと思う事もあります。

ただ、最終的に環境省を選んだ事には自分なりの考えがあつての事なので後悔はしていません。絶対的な「正解」というものはないと思いますが、「自分が納得出来る」就職活動を行って頂きたいと思います。

| |
|-----------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 社会システム工学専攻 |
| 【学年、性別】 |
| 博士前期課程 2 年、男 |
| 【試験区分】 |
| 理工 I |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成 23 年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 4 回（1 次試験合格者向けを含めて） |
| 【併願した省庁（第 1 クール訪問順）】 |
| 国土交通省 → 環境省 → 経済産業省 |

【就活のスケジュール】

- 〈学部 3 年〉 春休みに霞ヶ関 OPEN ゼミに参加し国家公務員に興味をもつ
- 〈学部 4 年〉
- 〈修士 1 年〉 インターンシップ（8 月）、OPEN ゼミ（9 月）
- 11 月 民間企業の説明会に参加
- 12 月 試験勉強を本格的に開始、環境省の政策シミュレーションに参加
- 1 月 公務員試験の勉強を進めると同時に民間企業の説明会にも参加
- 2 月 民間企業の説明会に参加、予備校の模擬試験を受験
- 3 月 霞ヶ関 OPEN ゼミ、民間企業数社へ ES 提出
- 〈修士 2 年〉
- 4 月 試験勉強追い込み
- 5 月 国家 I 種、都庁などを受験、人事院面接前に面接練習（大学で）
- 6 月 省庁に関して情報収集、面接対策、官庁訪問

【大学生活の過ごし方について】

高校までであまりしてこなかった経験をしようと思いがけながら過ごしました。学部 1 年次に学園祭実行委員会に所属して、大きな組織の一員として一つの目標に向かっていくことの大変さと充実感を体験しました。委員会の仕事の中で、他の部局の担当の方と調整をする機会も多く、その苦労も貴重な経験だったと思います。

3年次には、環境系ではないのですが、出身大学のある街の自転車での走行環境を調査して地図化するというボランティア活動に参加しました。その活動には学生だけでなく地域住民の方々も参加されていて、自転車の走行環境に対する見方・考え方もそれぞれ異なり、お話を聞いているととても興味深かったと記憶しています。

また、3年次の講義では実際の地域を取り上げて具体的なまちづくり施策を考える実習授業があり、それを通じて、行政という立場から地域・社会が抱える問題を解決するためのアプローチをするということに興味を持ち始めました。

【趣味、特技】

- ・まち歩き（歩いてみるとその場所・地域のなりたち・歴史が見えてきて面白い）
- ・ハイキング（登山というほど本格的ではないので。でも気持ちいい）

【志望動機】

高校時代まで住んでいた地元で、山を切り開いて工業団地を造成したものの、ずっと空いた区画が存在するというを目にし、そのような開発を続けて本当に良いのか、という問題意識を持っていました。そのこともあって、大学では都市・地域計画を専攻として選びました。

卒業後の進路についても、社会（とそれを構成する地域）の問題の解決に取り組める仕事に就きたいと考えていました。修士1年次の夏にお世話になったインターンシップ先で、環境省が低炭素で持続可能な地域づくりを目指した施策に取り組んでいることを知ったことが環境省に興味を持つきっかけでした。

これまでの都市・地域づくりの施策は市街地内での利便性の問題等を政策課題としてきた面が強いですが、今後は周辺地域の自然環境とのバランスを図り、持続可能な地域をつくるための制度設計に取り組みたいと考えたことが直接の志望動機です。水・大気、廃棄物、環境アセスメントなど私たちの生活に欠かせない分野の業務にかかわれることは、とても魅力的に感じたということもあります。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

文章理解：スーパー過去問ゼミ

数的推理・判断推理：畑中敦子シリーズで基礎固め、スーパー過去問ゼミで練習

工学に関する基礎：スーパー過去問ゼミ、高校の教科書など

それ以外の専門：大学の教科書など

〈試験対策について〉

まず模擬試験や過去問を少し解いて、どの分野で何点取るべきか検討しました。私は理

工系にもかかわらず数的・判断推理が大の苦手だったので、これらについては平易な問題集を繰り返し解いて基礎固めをし、過去問をつぶしました。文章理解はスーパー過去問ゼミを毎日少しずつ解きました。工学の基礎はスーパー過去問ゼミを解きながら、わからないところは高校の教科書などで確認しました。自分の専攻分野の専門試験については大学の教科書などを見直し、過去問を解きました。

【官庁訪問について】

初回訪問時に提出する訪問カードに関する質問はもちろん、興味のある政策課題、環境省に関連する特定の政策課題に対する自分の考えなど様々な角度から質問されました。

面接カードに関する質問は、一貫性がある、かつ志望動機や自己PRなどにつながるような回答ができるかを見られていたと感じました。学生時代の経験は行動した結果だけでなく、その行動の意図や、それが職務にどう生かせるかを的確に説明できるとベストだと思います（自分も十分にできていたわけではないので難しいですが）。

時事問題や政策課題に関する質問については、省庁のHPのチェックや、日ごろから新聞やニュースにアンテナを張っておくことが重要だと思います。自分から興味のある政策課題を言わなければならないときに、自分なりの意見がある話題を少しでも持っている方が話しやすいはずです。私の場合は前年から新聞をスクラップしたり、気になる雑誌記事をコピーしてまとめておいたりしました。

また、官庁訪問では面接官に質問をして、業務説明をお聞きすることもできます。そのやり取りを通じて、環境省への理解が非常に深まりました。対策という意味では、業務説明での発見や印象に残った内容を踏まえて、自分の考えを次の面接までにブラッシュアップしていくことも大事かもしれません。

【環境省を志望される方へメッセージ】

「環境省を…」というのと違うかもしれませんが、就職活動中に、面接対策も兼ねて常に考えていたことがあります。3段構えの質問で、「なぜ公務員を志望するのか」、「なぜ地方（国家）公務員ではなく国家（地方）公務員を志望するのか」、「なぜ数ある省庁から〇〇省を志望するのか」というものです。

この質問に本気で回答しようとする、民間企業も含めて自分で情報をよく集めて、話を伺って、そして考えることが必要になると気づきます。十分な回答ができないと思ったら（私も終始、十分ではないと思っていましたが）、調べる、聞く、考える、のどれかをして自分の就職活動を見つめ直しました。私の場合は、その見つめ直しの積み重ねを経て環境省への志望を強めていったという経緯があります。

現時点で、絶対に行きたいと考える方向性があるとしても、今一度、調べる、聞く、考える、をしてみることをお勧めします。もしその結果、当初の方向に行き着いたとしても、その前よりも考えが深くなっているはずなので、悪いことではないと思います。

| |
|-----------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 土木工学専攻 |
| 【学年、性別】 |
| 博士前期課程、2年 |
| 【試験区分】 |
| 理工 I |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成 23 年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 4 回（政策シミュレーションなど） |
| 【併願した省庁（第 1 クール訪問順）】 |
| 環境省 → 国土交通省 |

【就活のスケジュール】

就職先をどうするかということは修士 1 年になったころから考え始め、8 月に環境省のインターンシップに参加した後に環境省を目指すことを決めました。その頃には環境省の仕事に対して強い魅力を感じていたため、30 年以上働くことを考えるとたとえ数年ぐらいは無駄にしてもいいという気持ちから民間の就活はせず国家 I 種一本で就活を行いました。しかし、環境省への志望動機を固めるために必要と思い、民間の説明会には参加しました。

〈修士 1 年〉

- 8 月 環境省のインターンシップに参加
- 11 月 少しずつ勉強開始、環境省の政策シミュレーションに参加
- 12～3 月 研究、試験勉強、たまに民間の説明会に参加

〈修士 2 年〉

- 4 月 試験勉強に集中
- 5 月 国家 I 種一次試験および二次試験勉強
- 6 月 官庁訪問
- 7 月 内々定

【大学生生活の過ごし方について】

私は幼い頃から常に何かしらのスポーツと関わってきました。小・中学時代は野球と空手、高校・大学時代はラグビーをやりました。ラグビー部では高校・大学と最高学年で主将を務めました。主将の経験は、現在の私の人格形成に関わる大きな経験となりました。

チームの意見を調整する、方針を説明する、実際に行動に移すなどのプロセスの中で、どうしたらチームは勝てるのか、まとまるのか、自分はどの行動すべきかということリーダーとして真剣に悩み、突き詰めていく作業は非常に大変で苦悩も多いものでしたが、その中でリーダーとしての心の持ち様や、人とのコミュニケーションの方法、組織を動かしていく方法などについて多くを学び、成長を実感できたことは、私の人生においてかけがえのないものです。そのような立場を高校と大学で2回経験できたということも大きく、同じラグビー部主将という立場ですが状況はまったく異なりました。高校で得た経験を基に大学で自分なりに考え動いてきましたが、大学でも多くの困難があり、人・組織を動かすことの難しさ、奥深さが余計に感じられたものと思います。

【趣味、特技】

ラグビー、野球、スポーツ観戦、ツーリング、世界地図の統計資料を眺める

【志望動機】

大学にて水環境問題について学ぶうちに、水環境問題は様々な環境問題が絡み合った結果起こっている事象であるということ強く感じました。例えば、水域の水質汚濁問題は、窒素・リンなどの栄養塩の循環や、温暖化による水温上昇、水域に生息する生物構成のバランスの変化など様々な要因が重なって引き起こされている可能性があり、解決のためにはあらゆる視点からの対策が必要であると感じました。水、大気、土壌、廃棄物、化学物質、温暖化、生物多様性などのあらゆる環境問題は互いに無関係ではなく影響を及ぼし合っていると感じてから、水環境だけでなくあらゆる環境問題に対してアプローチできる職場で働きたいと考えるようになりました。

また、就職活動をしていく中で、民間企業は自社の利益を追究しなければならない以上、環境をより良くする技術を持っていてもそれを社会に還元できない場合があります。それは言い換えれば、今の社会は環境に配慮した行動を起こしたくてもできない社会（環境に配慮しようとすれば損をする社会）であると感じました。環境はあらゆる人々が享受する共有の財産であるはずであるのにそれはおかしい、やはり環境を良くしていくためにはひとりひとりが環境は共有財産であることを意識し、能動的に環境を良くしようと思えるような社会にしなければならないと思いました。それができるのは国家公務員、それも環境省だけであると考えました。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

国家Ⅰ種試験 過去問、工学に関する基礎の頻出問題、土木の頻出問題、大学図書館であった専門の参考書

〈試験対策について〉

あらゆる分野を広く網羅する対策は効率的とは言えません。一次試験はまず過去問を数年分解き、自分の能力を鑑みて結果の出やすい科目を取りこぼしのないようにやる必要があります。学習時間と点数が比例しない科目もあるのでそういうものは後回しにすべきだと思います。私は判断推理・数的推理、工学に関する基礎を優先的にやりました。

2次試験はひたすら過去問をやり、分からない部分を大学図書館で参考書をあさりながらつぶしていきました。

【官庁訪問について】

官庁訪問では、志望動機や自分のこと（研究やその他の経験）など定番のことから、政策に関する割と専門的なことまで聞かれます。まずは普段から行政や環境に関する話題に対してアンテナを張り、様々な人の意見を聞くことだと思います。それはテレビの中の人、教授、親しい友人、旅先で出会ったおじさんなど誰でも構わないと思います。大切なのは得た様々な情報を取捨選択し、自分なりに考えを深めていくことです。むしろ危険なのはある立場の人々だけの意見を聞き、偏った情報を得ることだと思います。

また、練習する際は先生や友人などに是非協力してもらって下さい。面接も結局は会話ですから流れがあり、同じような質問でも求められる回答は微妙に違ったりします。その時々会話の流れに沿って臨機応変に答えを引き出せるような準備が必要であり、それには実際に人と話し、自分の考えを説明する経験が必要不可欠です。また、1人では気づきにくいことも多くあります。肩の力を抜く、明るく話すなど少し気にするだけで相手に与える印象は大きく変わることを実感しました。気にしすぎても良くないですが、第三者の意見は大事にして上手く生かすべきだと思います。

【環境省を志望される方へメッセージ】

私が最近考えることは「環境」を扱う仕事の責任の大きさです。環境は当然あらゆる人にとって生活の基盤です。環境省が目指すべき環境を提示することで、そこから経済活動や都市の在り方、人々の生活スタイル、さらにはその時代を生きる人の思想・倫理観まで規定することになるのではないかと思います。まだ働いてはいませんが、そういう意味で環境省の仕事はとてもエキサイティングなものではないか（実際そうであると職員の方々には言われています）と感じています。就活中の時期にある職員の方が「環境省は今、国家の哲学について語ることのできる、また語れる職員がいる数少ない省庁の一つだ」とおっしゃっているのを聞き、環境省への思いが一段と強くなったことを覚えています。

今は環境とまったく関係のない職業を見つけるのが難しいぐらいに環境に関する分野は多岐にわたっています。民間企業、地方自治体など様々な選択肢がある中で環境省の仕事に少しでも魅力を感じ、説明会や官庁訪問に来てもらったならば、その気持ちを高めてくれるものが環境省にはあるのではないかと思います。是非積極的に話を聞きに来ていただきたいと思います。

| |
|-----------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 環境・エネルギー工学専攻 |
| 【学年、性別】 |
| 博士後期課程 3 年、男 |
| 【試験区分】 |
| 理工 I |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成 23 年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 1 回 |
| 【併願した省庁（第 1 クール訪問順）】 |
| 経済産業省 → 環境省 → 外務省 |

【就活のスケジュール】

もともと研究職志望だったため博士課程に進学しており、学部・修士ともに就職活動は説明会に何度か足を運んだことがある程度でした。したがって、博士 2 年の就職活動は教授に卒業後の研究室のポストを尋ねるところから始めました。しかし、博士課程在学中の留学経験から、公務員に興味を持ち始め、帰国後に受験を本格的に検討し始めました。あまり時間の猶予はなかったのですが、決意を固めたのが年末頃、勉強に本腰を入れたのがやっと 2 月あたりでした。万が一の場合は、一応研究室で研究員としてのポストは用意していただける、というお話は頂いていましたが、博士論文のための残り時間を考えると、やはり背水の陣ではあったと思います。

〈博士 2 年〉

- 11 月 留学から帰国
- 12 月~1 月 博士論部執筆にむけ研究をしつつ、受験の決意を固めつつ、情報収集
- 2 月 半ばに研究をいったんストップ、試験勉強開始
- 3 月 政策シミュレーションに参加

〈博士 3 年〉

- 5 月 1 次試験 終了後二次対策開始 → 二次試験
- 6 月 官庁訪問の準備をしつつ、研究を再開 → 官庁訪問

【大学生生活の過ごし方について】

私の大学生生活は、振り返ってみると自分の興味を出発点にひたすら突き進む行程だったように感じます。

大学時代は大学の交響楽団に所属していました。仲間との積極的な交流（＝飲み会）の傍ら、寄せ集めのオーケストラやアマチュアの団体にも参加し、そこで出会った方とアンサンブルに興じるなど、非常に楽しい演奏生活でした。オーケストラの運営にも一部携わり、組織運営やメンバーのモチベーションの維持の重要性などを学びました。

環境問題自体は、高校時代に興味を持ち環境工学のある大学を選びました。学部時代は漫然と過ごしていましたが、大学3年生の春にたまたま参加した南アフリカでのエクスカッションをきっかけに開発途上国（南アは正確には途上国とは言い難いですが）の環境問題へと特に興味をひかれるようになりました。さらに、気の赴くままに研究対象に中国を選び、上海郊外でフィールドワークなどを経験させていただき、そのまま博士課程への進学したものの開発学の本場イギリスへの留学を執行、1年間の修士コースに参加してきました。多くのアフリカやインドの留学生にもまれながらの生活は非常に刺激的であり、また学ぶことも多かったといえます。さらに座学では物足りず留学中には、カメルーンでのNGO活動への参加や、帰国中にインド・ネパール旅行と満喫してきました。多少モラトリアムだったかな、という気がしないでもありませんが、自分の興味関心を元にこれだけの時間をかけて、見て、学ぶ時間が取れることは今後二度とないと感じ、本当に貴重な経験だったと思います。

【趣味、特技】

チェロ演奏、サッカー、読書

【志望動機】

環境政策の分野への興味関心は、大学・大学院と進学するうちに自然とわいていたように思います。卒論・修論では環境マネジメント領域と呼ばれる研究分野で、シミュレーションモデルを使い、中国の人々の消費行動の違いによる製品循環への影響を分析しました。研究職を志望し博士課程に進学した後もこれを継続して研究をしましたが、環境工学は実学的な要素が強く、徐々に研究分野で議論されていることだけでなく、それをより具体的に世の中に実現させることの方にも魅力を感じるようになりました。

留学はこの思いをさらに後押ししてくれたと感じています。よく言われるように、海外の大学院では社会人経験を備えた学生が非常に多く、途上国で開発のNGOで実務を既に何年もこなしてきたような方々や、また同じく留学していた日本の省庁の方と出会えることができました。こうした出会いや議論を通じて、自分の研究領域で議論されているような事柄を支援し、実現する政策意思決定の世界へ是非参加してみたい、と感じるようになり、帰国後博士論文執筆の傍ら公務員を受けることを決意しました。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

教養対策：国家Ⅰ種教養試験 過去問、公務員試験 速攻の時事（実務教育出版）、Wikipedia（歴史や哲学分野では大変お世話になりました）

専門対策：過去問、大学の図書館にあった教科書群（詳細は失念...）、各種白書

〈試験対策について〉

最初試験勉強を始めたときは、情報収集不足からあまりに参考資料がなくて戸惑いましたが、資料の充実していた教養から始め、人事院から専門試験の過去問を取り寄せてからはだいぶペースも落ち着いてきました。一次試験の専門科目では、大学での専門に近い科目は問題ないと思いますが、それ以外をいくつか解かなければいけない場合、年によって当たりはずれがあるため、複数科目を想定し、本番で選択する程度の余裕があることが望ましいかと思います。

【官庁訪問について】

官庁訪問では、環境と国際協力をキーワードに訪問先を選びました。環境省、経済産業省、外務省が候補に挙がり、なるべく三省を同列に見比べよう努力しました。官庁訪問中に私が考えていたことは、職員の方々が日々どのような思いで仕事をしているのか、またそれが自分が普段考え、経験してきたことにどう関係しているか、ということでした。官庁訪問中非常に多くの方々と話す機会があり、各省ごとにやはりカラーがありました。最終的には私の中で今後重要であり、ぜひ関わっていきたく感じていた、社会の価値観の変容の必要性、ボトムアップでの意思決定の重要性、こうした考え方で共感できる方々と出会うことができた環境省を選択しました。

【環境省を志望される方へメッセージ】

私の場合、非常に時間をかけてやっと就職にこぎつけることができたわけですが、思い返せばこれが最短ルートだったのかなあ、という風にも思えてきます。私は環境から始まり、開発問題へと興味関心を発展させてきました。開発の世界では環境問題は数ある課題の中の一つにすぎず、それが原因で友人と激論を交わすこともしばしばありました。しかし、そうした中で見たもの・感じたことを真摯に受け止めて得たものが、官庁訪問中に想いを自分の言葉として説明し、内定を頂くことができた重要なパーツとなったと感じています。いつ、どこで、どのような出会いや人生の転機が訪れるかはあるかわかりませんが、自分のやりたいこと、興味のあることをベースに興味関心を深く広く発展させ続けてほしいな、と思います。

最後に、私の経歴はやや異端であり、多くの方の役には立たないかもしれませんが。しかし、逆にこういう人もいるのか、と心の励みにしていただける方が一人でもいれば、と願っております。

| |
|---------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 自然環境学専攻 |
| 【学年、性別】 |
| 博士前期課程2年、女 |
| 【試験区分】 |
| 理工Ⅲ |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成23年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 5回程度 |
| 【併願した省庁（第1クール訪問順）】 |
| 環境省 → 文部科学省 |

【就活のスケジュール】

〈学部3年〉

〈学部4年〉 修士課程に進むことを決めていたので、卒業研究と院試対策のみ。

〈修士1年〉

11月 博士課程進学を検討していたが、公務員を考え始める。

過去問や情報収集を行う。

12月 説明会に参加するなどして、公務員を目指すことを決意。

1~3月 試験勉強や官庁訪問などで研究する時間が今後とりにくくなると思
い、この時期は研究をできるだけ進めていた。

〈修士2年〉

4月 試験対策

5月 試験対策（論述・面接の練習もはじめる）

6月 主に官庁訪問対策

【大学生活の過ごし方について】

学部時代は物理学を専攻していました。比較的实验などによる時間的な拘束が多かったですが、心理学や国際学など、専門とは全く関係ない授業も興味にまかせて受講したりしていました。在学中に海外留学をしようと決めていたので、学部3年次にカナダの大学に一年間留学をしました。この経験は語学能力を伸ばすことができたというだけでなく、そ

れ以外のことでも予想以上に役にたっています。サークルにも所属していましたがそちらは月に一、二回顔を出す程度で、どちらかというとなNGOでのボランティアに精を出していました。

【趣味、特技】

テニス・ヨガ・旅行・読書・音楽鑑賞 など

【志望動機】

大学に入学したときから環境問題に関心があり、漠然とですがその解決に携わっていきけるような仕事につきたいと考えていました。はじめは科学者として技術開発などをしていくのもいいな、という思いから理系の道を歩んでいましたが、それと並行して環境NGOや企業でのインターンを通じ、異なった立場からどのように環境問題にアプローチしていくことができるかも考えていきました。そうした経験をしていく中で、どういった場でもその活動を活かしていくためには、行政の関わり方が非常に重要だと感じるようになりました。「行政の場でより良い施策を打ち出していくことで、環境問題に取り組んでいる人々がさらに高い目標を達成していけるような場を作っていきたい」という思いから、公務員を目指すことにしました。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

(教養)

- ・ 公務員試験 速攻の時事 資格試験研究会
- ・ 国家公務員一種教養試験 過去問 500 資格試験研究会

(専門)

特になし。自分もっていた教科書や参考書などを活用。

〈試験対策について〉

(試験形態が大幅に変更されているであろうことを念頭においてお読みください。)

スケジュールにも書いたように私は公務員を考え始めるのが遅めだったこと、また院試で勉強したことがほとんど関係のない分野だったため、はじめは準備が間に合うかどうか少し不安でした。幸運なことに私の周りには区分を同じくして受験をする、もしくは既に受験した友人が何人かいたので、そういった人たちと情報交換・勉強会を行うことで良いペースを作れたのかなと思います。最終的に周りの話を聞いていると、短期集中(1~2ヶ月程度)で試験にのぞんだ人も比較的多かった気がします。

公務員試験は過去問から似たような問題が出ると言われていたので、教養は数年分の問題を解き、答えだけでなく出てくる選択肢について調べ覚えていくことを心がけました。専門に関しては過去問で解けない問題と似ている例題を参考書で探すなどし、解答にたど

り着けるようにしました。反省として、論文対策がかなりぎりぎりになってしまい当日思うように時間配分ができませんでした。今年も実施されるのであれば、文章を時間通りに書く練習を早めにしておいた方が良いでしょう。

【官庁訪問について】

官庁訪問期間中は、興味がある官庁には行ってみることをお勧めします。様々な職員の方とお会いする中で説明会ではわからなかった省庁毎の違い・カラーが見えてくると思うので、実際の業務内容とともに自分が「どこで」「どういった人と」働きたいかを確認する機会として活用してください。ただ非常に密度が濃く、暑さや疲れで体調を崩しやすい時期でもあるので、自分の体と相談しながら力を入れる時と抜く時をコントロールする必要があります。

実際の面接では、「自分の意見を言う」→「それに対して職員からコメントなり反論の形でつつこまれる」という形を繰り返して自分の考えを深めていくことができました。比較的意见は自由に言ってもいいと思いますが、掘り下げられてもいいように、自分の中での理由付けを様々な角度から検討しておくといいのではないのでしょうか。質問される内容は面接官によって様々です。志望動機や自分がこれまでやってきたことなどは良く聞かれますので、そういった基本的な質問には背景も含めてきちんと答え、相手に納得してもらえよう準備をしておくといいと思います。

【環境省を志望される方へメッセージ】

どの企業・省庁でもやりがいのある、面白い仕事はできると思います。特に環境関連の仕事は関係する分野も広く、民間・他省庁でも似た業務ができる可能性が十分にあります。その中でも私が環境省を選んだのは、ある職員の方がおっしゃった「最後に自分が旗印にしたいものが環境だった」という一言につきます。環境省を志望される際には、様々な職種をみて検討した上で、「やっぱり環境省で働きたい」という強い気持ちを持っていらしてみてください。その想いは面接官を「この人と働きたい」という気持ちにさせるといいますし、そう感じてもらえればきっと良い結果が得られると思います！

| |
|-------------------------------|
| 基本データ |
| 【専攻】 |
| 農学研究科 生物資源経済学専攻 (学部 理学部 生物学科) |
| 【学年、性別】 |
| 博士前期課程 3 年、男 |
| 【試験区分】 |
| 理工IV |
| 【筆記合格年度】 |
| 平成 19 年度、平成 23 年度 |
| 【説明会参加回数】 |
| 2 回 |
| 【併願した省庁 (第 1 クール訪問順)】 |
| 文部科学省 → 経済産業省 → 環境省 |

【就活のスケジュール】

私は非常に吟味を重ねて進路を決めました。留学のために修士 3 年間で計画していたので、修士 2 年で民間と国 I を見比べ、その時の官庁訪問で出会った受験生達や職員の方々と共に働きたいと真摯に思い、国 I 志望を固めました。修士 2 年の夏からは交換留学準備・修士論文作成・試験勉強など忙しかったですが、どうにか乗り切ることができました。

〈学部 3 年〉 年明け頃から試験勉強開始

〈学部 4 年〉 国家公務員試験 受験 1 度目 (官庁訪問は行わず)

〈修士 1 年〉

12 月 民間説明会参加

1 月 民間エントリー開始

〈修士 2 年〉

4 月 民間選考

6 月 官庁訪問

7 月 交換留学の準備

2 月 修士論文の作成 (提出せず)

〈修士 3 年〉

4 月 試験勉強開始

5 月 国家公務員試験 受験 2 回目

6 月 官庁訪問

8 月 交換留学開始 (半年間)

【大学生活の過ごし方について】

学部時代に日本46都道府県と東南アジアを旅行し、沢山の人達との交流を得ました。資金はアルバイトで貯め、旅行中は限られた予算の中でできる限り沢山の経験を積めるように事前の計画と節約を徹底していました。そして、1人旅もしくは少人数での旅行であったため旅行先の人達と触れ合うことが多く、その人達の生活を支えることのできる仕事が見たいと考えたことも国家公務員を志望した理由の一つです。また、旅行の思い出の一つに、九州のあるラーメン屋店主との出会いがあります。彼は末期癌で、医者からの余命3ヶ月の宣告にも関わらず、彼自身が築いた店に立ち続けていました。自分の店を最期まで続けたいと言う彼の姿から、私もそれぐらいの気持ちで取り組むことのできる仕事を見つけないと思うようになりました。このように私は旅行中の多くの出会いを通して自分の考えを広げてきました。皆さんにも学生時代に長期間の一人旅をすることをお勧めします。

学部4年生と大学院では基本的に研究室に籠って研究に没頭していました。特に私は院から専門を変えたため、やるべきことが多く苦勞しましたが、私がリーダーとして出発した京都府のLCA解析手法に関する研究を、現在では京都府からの助成を獲得し、後輩が積極的に続けることができる研究にまで発展できたことは私の自信になっています。

大学生活の中で国内外の沢山の場所を訪れ、沢山のひとと出会い、交流してきました。勉強面でも研究やインターンシップ・留学と意欲的に取り組むことができ、非常に充実した時間を過ごせました。

【趣味、特技】

旅行、ツーリング、サイクリング、ランニング

【志望動機】

「環境」に興味を持ち始めた理由は、自然豊かな場所で育ち、野山や川で遊んできたことと、幼少期に地球温暖化や酸性雨などの環境問題をテレビなどでよく目にし、子供ながらに不安に思ったことが関係しています。その後、大学で生態学や環境経済学を研究すると共に、環境教育を行うNPOへのインターンシップを通して子供達のために何ができるか考え、次の世代へより良い未来を引き渡したいと思うようになりました。上記のように私は「環境」を軸にして成長をしてきましたが、環境省への志望を固めたのは官庁訪問中でした。環境省志望に二の足を踏んでいた理由は、環境省の仕事に幅の狭さを感じていたことと、他官庁でも「環境」に取り組むことができると考えていたからです。しかし、環境省の面接の中で、私が想像していたよりも仕事の幅がはるかに広い（面接官曰く「“環境”が付けば何でも取り組める」「発展途上国の環境問題とは貧困・飢餓であって、それらにも取り組まなければならない）ことを知り、“技術”や“教育”などをツールとして、より良い「環境」という明確な目標のために今ある問題へと総合的な解決策を打ち出すことのできる仕事内容に惹かれたことが環境省志望を決心させました。進学や民間企業、その他官庁などを十分考慮した上で、ベストだと断言できる選択であるため、満足しています。

【公務員試験について】

〈活用した参考書〉

大学主催の公務員講座（一般教養）の参考書、国家Ⅰ種教養試験 過去問、国家Ⅰ種理工Ⅳ区分 過去問

〈試験対策について〉

学部3年の時に大学主催の公務員講座（一般教養）に出席していたので、2回目の受験でもその時の参考書を使いました。一般教養ならば市販されている参考書の中にも良いものがあると思います。専門については、過去問に関する知識を教科書（THE CELL など諸々）で補強しました。専門の過去問は人事院に連絡するか、大学のキャリアサポートセンターにて入手できると思います。また、2回目の受験時の勉強開始時期が4月になってしまいましたが、これは研究が忙しかったからです。1回目の経験があったから間に合いましたが、初受験の方はもう少し前から勉強することをお勧めします。区分に依りますが、私の受けた理工Ⅳ・生物では、特に一次試験の範囲が広いと感じました。

【官庁訪問について】

官庁訪問では非常にハードなスケジュールを要求されます。面接の準備や体調管理は事前から計画的に行った方が良いです。

官庁訪問中の面接では、基本的に業務説明と官庁訪問申込書に沿った質問が行われました。当然のことですが、面接官の話をしっかりと聞くこと、はきはきと元気よく話すこと、多少時間を掛けても良いのでしっかりと考え、分かり易く論理的に話すことが大切です。

官庁訪問の前に各省庁について調べ、それについて自分の意見を考えておいてください。それらを持って官庁訪問に臨み、面接を通して自分の考えを深めることが重要です。官庁訪問中に面接官と議論を交わすこともありますが、わからないことは素直に質問し、どうしても曲げられない考えならば、時に確固たる姿勢で議論に臨むことも必要です。官庁訪問中にどれだけ成長できるかが結果に繋がります。

また、官庁によってカラーがあります。説明会への参加やOB訪問を通して、仕事内容と共に官庁の雰囲気も把握しておくといいでしょう。

【環境省を志望される方へメッセージ】

自分のやりたいことをできる限り吟味してください。“環境”に関連する仕事がしたいならば、民間企業やNPO団体、研究活動等でも携わることができます。誰に対する仕事がしたいのか、どれほどの規模の仕事がしたいのか、自分がどのような立場で仕事をしたいのかをよく調べ、よく考えてください。その上での答えが環境省なのであれば、大歓迎です。

私から見て環境省の仕事は、幅広い視野と大きな影響力を持って、今ある問題に直接的な解決策を打ち出せる大変やりがいのある仕事です。また、どこよりも「(国民のための)環境」を考えて働くことのできる単純明快な仕事です。試験勉強や官庁訪問と乗り越えなければならぬ試練は多いですが、それに見合った仕事だと思います。頑張ってください。

また、学生の内に沢山のことに挑戦して、充実した時間を過ごしてください。